令和８年度全国学力・学習状況調査からみえる



函南町の子どもたち

令和8年10月　函南町教育委員会

令和8年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の函南町立小中学校の調査結果について、概要をお知らせします。本調査は小学校6年生、中学校3年生を対象とし、今年度は「国語」と「算数・数学」「英語」の3教科および生活・学習の様子に関する「児童生徒質問調査」について行ったものです。なお「英語」については、学習用端末（タブレット・PC）を用いたオンライン（CBT）方式で実施しました。

教科に対する調査結果から、函南町の子どもたちのよいところや今後の課題についてまとめました。これにより、保護者の皆様をはじめとする家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの生活や学習状況を改善していくことにつなげたいと考えています。なお、本調査から読み取れることは、児童生徒の学力の一部であり、学校の教育活動の一側面であることをご承知おきください。



教科に対する調査結果から

全国の平均と比べたときの差
「◎」…高い　「○」…やや高い　「□」…ほぼ同じ
「△」…やや低い　「▲」…低い

【小学校国語】

全体正答率		△
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	▲
	(2)情報の扱い方に関する事項	▲
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	□
	B 書くこと	△
	C 読むこと	▲

【小学校算数】

全体正答率	△
A 数と図形	△
B 図形	□
C 測定	△
C 変化と関係	△
D データの活用	△

・小学校国語では、「話すこと・聞くこと」に関する領域が全国平均と同水準の結果となり、それ以外の項目では、全国平均をやや下回りました。
・小学校算数では、「図形」に関する領域が全国平均と同水準の結果となり、それ以外の項目では、全国平均をやや下回りました。

【中学校国語】

全体正答率		○
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	○
	(2)情報の扱い方に関する事項	△
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	△
	B 書くこと	□
	C 読むこと	○

【中学校数学】

全体正答率	□
知識及び技能	□
思考力、判断力、表現力等	□
A 数と式	□
B 図形	□
C 関数	△
D データの活用	△

【中学校英語】

全体正答率	△
知識及び技能	△
思考力、判断力、表現力等	○
聞くこと	△
読むこと・書くこと	□
話すこと	○

・中学校国語では、「言葉の特徴や使い方」と「読むこと」に関する領域が全国平均をやや上回り、「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方」に関する領域が全国平均をやや下回りました。
・中学校数学では、「関数」と「データの活用」に関する領域が全国平均をやや下回りましたが、その他は、全国平均と同水準となりました。
・中学校英語では、全体正答率が全国平均をやや下回り、「思考力、判断力、表現力等」と「話すこと」に関する領域が全国平均をやや上回りました。

国語（小学校）

※令和8年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。



できているところ（全国との比較）

○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現をくふうすること

この問題に注目！ ～今後伸ばしたいところ～

言いたいこと（考え）とその理由や具体例（根拠）の「つながり」を読み解く力

2　花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。

花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。

【花山さんの文章の一部】

「強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ」

二　花山さんは、**【花山さんの文章の一部】**で述べた「くふう」を具体的に説明したいと考え、文を書き加えることにしました。

書き加える文として、最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。
2　例えば、そでのないシャツを着るなどのくふうが考えられる。
3　例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。
4　例えば、日かげを選んで歩くなどのくふうが考えられる。



【正答　1】

「1」を選択した児童は、花山さんの考えである「肌を出しすぎない」「着るものをくふうする」という2つの要点をしっかりと捉え、適した選択肢を選ぶことができたと考えられます。

「2」または「3」を選択した児童は、強い日差しを防ぐための工夫であることを「花山さんの文章の一部」から読み取ることができず、暑い日に着るもの、または着方という自分のイメージや経験を中心に判断してしまったと考えられます。

「4」を選択した児童は、強い日差しを防ぐ（避ける）点には注目できましたが、着るものの工夫という条件まで整理して捉えきれなかったと考えられます。



POINT

- 自分の考えについて具体例をイメージしたり、自分の考えが具体例に当てはまるかどうかを確認したりする。
- 自分の伝えたい考えは何かを確かめたうえで、自分の考えを支える理由や事例をあげ、最も適したものを選択できるようにする。
- 自分の考えとは異なる多様な考えに目を向け、他者の意見とその理由について考察する。

算数（小学校）

※令和8年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

できているところ（全国との比較）

〇体積の意味、立方体の体積の求め方について理解している。

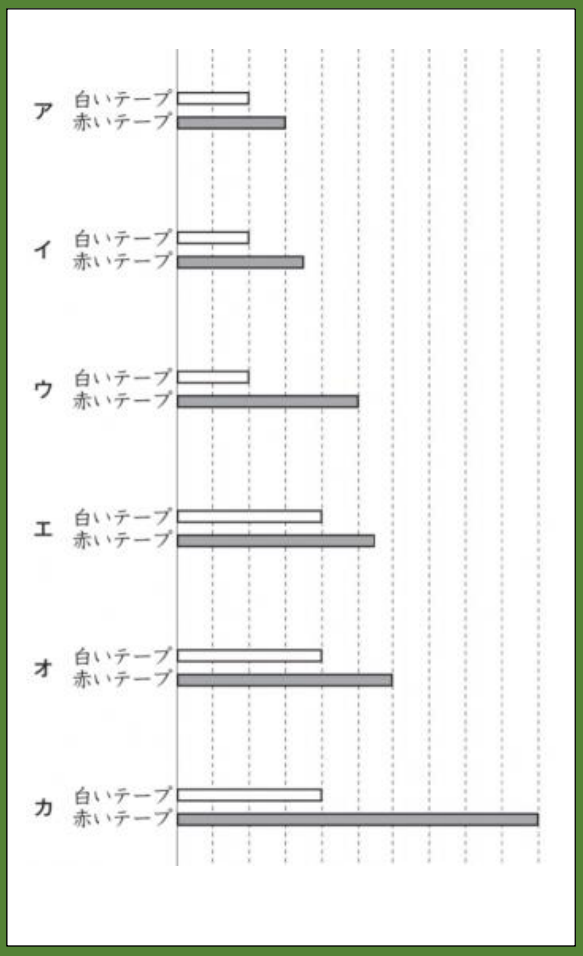
〇単位量当たりの大きさを求める除法式の意味を理解し、その商から2つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる。



この問題に注目！ ～今後伸ばしたいところ～

基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる。

2 (4) 赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図はどれですか。下のアからカまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



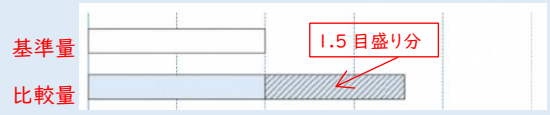


【正答】 ア・オ

白いテープの長さを基準量と捉え、基準量の 1.5 倍に当たる量と赤いテープの長さを適切に比較していると考えられます。

函南町の児童の正答率は約 25.2%であり、特に正答率が低い問題の一つでした。

「イ・エ」を選択した児童は、基準量の 1.5 倍に当たる比較量を、下のように基準量より 1.5 目盛り分多い量であると誤って捉えていると考えられます。



「ウ・カ」を選択した児童は、基準量の 1.5 倍に当たる比較量を、下のように基準量と基準量の 1.5 倍を合わせた量であると誤って捉えていると考えられます。





POINT

・基準量とその2倍や3倍に当たる量と比較することを通して、基準量の1倍や 1.5 倍、2.5 倍の意味を理解できるようにする。

・具体物を視覚的に活用し、基準量の大きさが変わっても「基準量の 1.5 倍に当たる量は、基準量を1と見たときの 1.5 に当たる量」であることを捉え、割合についての理解を深めることができるようにする。

国語（中学校）

※令和8年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。



できているところ（全国との比較）

〇文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができる。

〇文章の中心的な人物と付加的な部分について、叙述を基に捉えることができる。

この問題に注目！～今後伸ばしたいところ～

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること。

2 合唱コンクールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学級の目標を達成するための課題についてアンケートをとり、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次の【アンケートの結果を示した画面】、【話し合いの一部】、【話し合いを受けて整理した画面】を読んで、あとの問いに答えなさい。

一 【話し合いの一部】本文中の「課題を見ると、歌の表現の仕方に関わるものと、練習への取り組み方に関わるものの二つに分けられる」という石川さんの発言に対して、山下さんは「例えば『歌声に強弱がつけられていない』や『高い音の部分が上手く歌えない』は、歌の表現の仕方によりますよね」と発言しました。山下さんの発言について説明したものとして、最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選び記号で答えなさい。

1 石川さんの発言の中で間違った部分を指摘している。
2 石川さんの考えと自分の考えとの相違点を明らかにしている。
3 石川さんの考えに対する自分の理解があっているかを確かめている。
4 石川さんの発言に反対する意見を具体的な例を挙げながら述べている。



【正答】 3

「3」を選択した生徒は、山下さんの発言が、石川さんの発言に対する自分の理解が正しいかどうかを「歌声の強弱」や「高い音の部分」といった具体例を挙げて確認したものである、と捉えることができました。話し合いにおいては、互いの発言を踏まえて、自分の考えをまとめたり広げたりすることが大切だと理解していると考えられます。



「1」または「2」を選択した生徒は、石川さんと山下さんの発言の関係性を十分捉えられなかったと考えられます。話し合いの展開から、山下さんの発言が相違点や間違いなどの指摘ではなく、「自分の考えの確認」または「石川さんの発言に対する補足」であることを読み取ることが大切です。

「4」を選択した生徒は、具体例に着目することができているので、その具体例が「どのような目的で提示されたか」という文脈まで意識できると、さらに理解が深まります。

POINT

必要に応じて質問しながら話の内容を捉え、話の内容を正確に理解するために、

・相手が何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識する。

・必要に応じて分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを話し手に尋ねる。

数学（中学校）

※令和8年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

できているところ（全国との比較）

〇問題場面における考察の対象を明確に捉えられる。

〇箱ひげ図と四分位数の対応について理解している。



この問題に注目！～今後伸ばしたいところ～

反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求められる。

4　下の表は、y が x に反比例する関係を表したものです。□に当てはまる数を求めなさい。

x	⋯	-3	-2	-1	0	1	2	⋯
y	⋯	□	-6	-12	×	12	6	⋯

【正答】−4

反比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を正確に捉え、x=−3に対応する y の値を求められたと考えられます。

【求め方の例①】

反比例の関係式（$y=\frac{a}{x}$）を利用する。

x=1のとき y=12であることから、

a= x y =1×12=12

したがって関係式は $y=\frac{12}{x}$ と表せる。

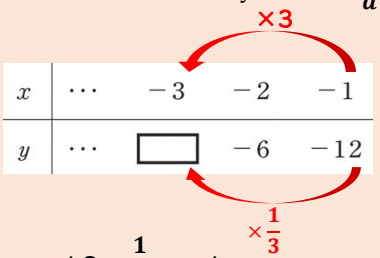
x=−3 のときの y の値は、

y=12÷(−3)=−4

したがって y=−4 となる。

【求め方の例②】

x の値を a 倍すると y の値は $\frac{1}{a}$ 倍される。



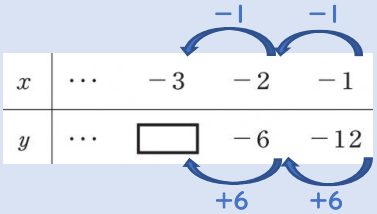
y=−12× $\frac{1}{3}$ =−4

したがって y=−4 となる。



「0」または「−3」と解答した函南町の生徒の割合は約 40%で、生徒がつまずきやすい問題の一つだったと言えます。

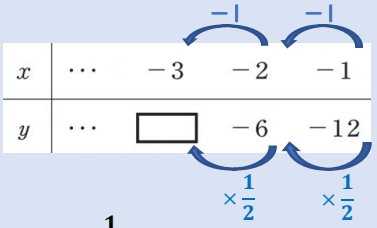
●「0」と回答した生徒は、y の値が−12から−6に変化していることについて、「6増加する」と、差に着目して解答したと考えられます。



1 次関数の考え

−6+6=0　したがって y=0

●「−3」と回答した生徒は、y の値に着目し、−6が−12の $\frac{1}{2}$ 倍になっていることから、□の値も−6の $\frac{1}{2}$ 倍になると捉えた生徒がいると考えられます。



−6× $\frac{1}{2}$ =−3 したがって y=−3



POINT

・反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉えたり、それらの特徴を基に x の値に対応する y の値を求めたりする。

・比例と反比例の特徴を比較しながら反比例の意味の理解を深める。

英語（中学校）

※令和8年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

できているところ（全国との比較）

○日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができる。
○日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。



この問題に注目！～今後伸ばしたいところ～

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書くこと

11 留学生のメイ（Mei）に**昨日の出来事**について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、**①メイが行った場所、②メイがしたこと**を、それぞれ英文1文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時（seven）
①	メイが行った場所	公園（the park）
②	メイがしたこと	テニス（tennis）

＜解答欄＞

例	Mei got up at seven.
①	
②	





【正答】

① Mei went to the park.

②は不規則動詞、②は規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書くことが求められます。

② Mei played tennis.

①の誤答例　・Mei go to the park.　・Mei is going to the park.
②の誤答例　・Mei play tennis.　・Mei will play tennis.
上記の解答に該当する生徒は、正しい語順で書くことはできているが、与えられた状況について、過去のことについて書くことを理解できていない、あるいは「go」の過去形が「went」であることや、「play」の過去形が「played」であることを理解できていないと考えられます。



POINT

・規則動詞、不規則動詞の過去形を理解する。その知識を活用して書く技能を身に付ける。
・目的や場面、状況などに応じて、適切な主語は何かなどを考えて、「主語＋動詞＋補語」などの文構造を意識して文章を書く。

生活や学習のようすに関する児童・生徒質問紙調査結果から

全国の平均と比べたときの差
「☆☆」…良好 「☆」…やや良好 「□」…ほぼ同じ 「★」…やや課題 「★★」…課題

質 問 内 容	小学6年	中学3年
自分には、よいところがあると思う	☆	□
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	☆	☆
将来の夢や目標をもっている	☆	☆
自分と違う意見について考えることは楽しいと思う	☆	☆
ICT機器を使って文章を作成することができると思う	☆☆	☆☆
ICT機器を使って情報を整理することができると思う	☆☆	☆☆
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ【主体的な学び】	☆	☆☆
授業は自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていた【個別最適な学び】	□	☆☆
話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりできた【協働的な学び】	★	☆

【結果の分析】

○自分を肯定的にとらえている児童生徒が多く見られます。その要因の一つとして、日頃から保護者や教師が一人ひとりの良さや頑張りを価値づけ、認めていることが考えられます。今後も児童生徒の自己有用感を高められるよう、肯定的な見とりと価値づけを大切にしていきます。

○将来の夢や目標をもっている児童生徒が多く見られます。「キャリアパスポート」を効果的に活用し、夢や目標の実現に向けた具体的な取り組みを計画するとともに、その成果や課題を自ら振り返り、次の成長につなげていく支援を大切にしていきます。

○自分と違う意見について考えることは楽しいと回答する児童生徒が多く見られます。相手の考えを温かく受け入れ、様々な視点から物事を捉えながら、友達と協力して考えを深めようとする姿勢が見られます。

○ICT 使用頻度や情報活用能力が全国平均を大きく上回りました。ICT の活用が、児童生徒の主体的な学びや個別最適な学びの充実につながっていると考えられます。今後は、ICT のより良い活用や、情報モラルについて児童生徒と教師がともに考える機会を大切にしていきます。

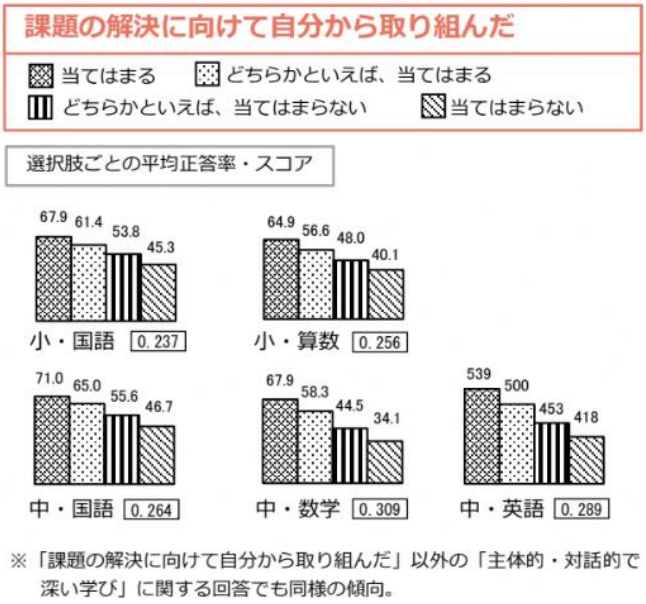
○話し合う活動を充実し、協働的な学びを通して、児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を大切にしていきます。

クロス集計 ～児童生徒の学びとの相関について～

1 主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学び」に前向きに取り組んでいる子どもほど、各教科のテストの正答率が高い傾向にあることが分かりました。自ら課題を見つけ、友達と意見を交わしながら納得解を導き出す学習スタイルが、確かな学力の定着につながってると考えられます。

☆みんなで話し合い、考えを深める学びを大切にしよう！

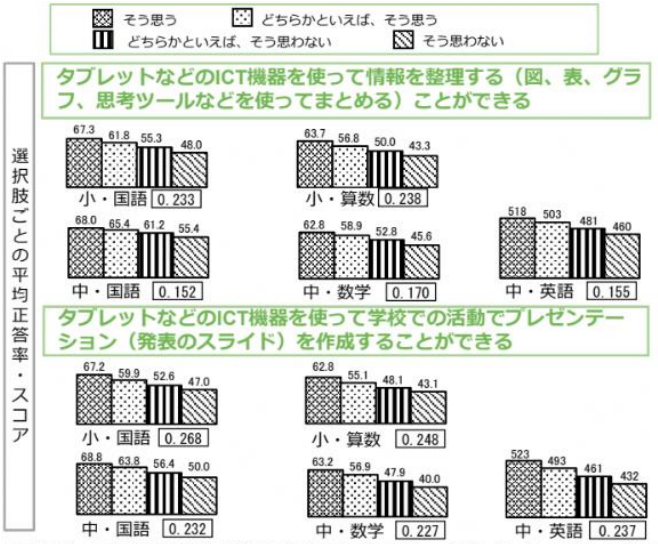


※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

2 ICT 機器を活用する自信がある

ICT 機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の平均正答率やスコアが高い傾向にあります。ICT を単なる閲覧・閲覧検索にとどめず、思考ツールによる情報の整理や発表活動等のアウトプット（表現・発信）に活用することが、学習内容の深い理解や学力の向上に寄与していると考えられます。

☆ICT で考えを整理し、みんなに発信しよう！

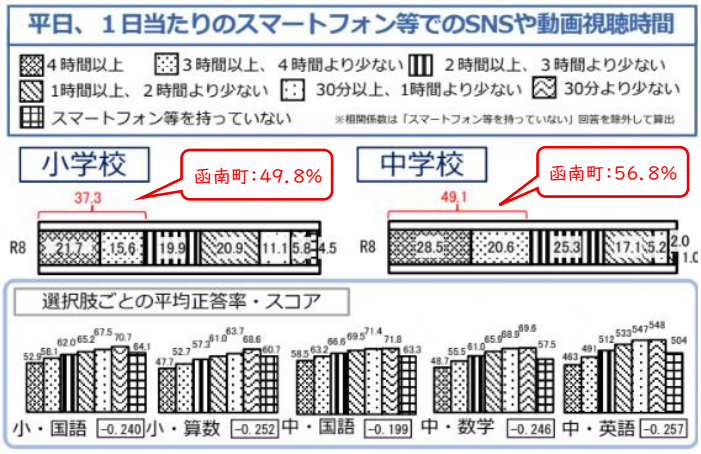


※「タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる」、「インターネットを使って情報を収集することができる」に関する回答でも同様の傾向。

3 SNSや動画視聴の利用時間が長い

スマートフォン等の利用時間が「30分より少ない」層が最もスコアが高く、「4時間以上」層のスコアが低い傾向があります。スマートフォン等の利用時間が長くなるにつれて各教科の学力（平均正答率）が低下する傾向がはっきりと表れています。

☆自分で時間を管理する習慣を身に付けよう！



※令和８年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント（令和８年８月文科省・国立教育政策研究所）より